

地域計画

策定年月日	令和7年3月31日
更新年月日	( )
目標年度	令和11年度
市町村名 (市町村コード)	大町市 20212
地域名 (地域内農業集落名)	常盤地区 (小西山・西山原村・中部小谷・道海戸・沓掛・春午子・原村下木戸・西木戸堀・須沼北部・下一・東部・下一西部・下一木中・原村東村・上橋若松・中村大林・西村・松原・東松原・西松原・柿ノ木・柿ノ木三・中部・中上手・佛崎・小海戸・郷倉・大久保・中村・神明原・寺海戸・中原・大崎・長畑)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	1044.1 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	872.4 ha
② 田の面積	969.9 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	74.2 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	282.5 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	518.8 ha
(参考)区域内における70才以上の農業者の農地面積の合計	353 ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	58 ha
(備考)	

- 注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。  
 2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。  
 3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。  
 4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。  
 5:(参考)の区域内における70才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。  
 6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

<p>平坦部には基盤整備された優良農用地が多いものの、西側の山沿いである中山間部では基盤整備が行き届いてない地区もあります。また、山沿いでは有害鳥獣による作物の被害が頻発することから、地域ぐるみでの侵入防止柵による対策が欠かせなくなっています。農地が多い分、同じ水路から水を引き込む距離が長く、上流域でまとめて引き込んでしまうと下流域の流量に影響する地域がみられます。</p> <p>農地の維持管理については中心的経営体のほかに多面的機能支払交付金の活動組織において、畦草刈り、農道や水路の整備が行われています。すべての地域(泉・上一・下一・清水・須沼・西山)で活動組織が形成されており、今後も適切な管理が維持されるものと考えられます。</p> <p>清水地域の山沿いは急傾斜地も多く、中山間地域等農業直接支払交付金の対象地となっていますが、水張が困難な農地については畑地化へ転換を図りつつあります。畑地化促進事業補助金の交付が終了した後の作付けや維持管理について課題となっています。</p> <p>市内で唯一畜産(乳牛・養豚)が行われている地区であり、悪臭対策について地元との合意形成を得られるよう支援することが必要です。また、家畜伝染病である豚熱について県とも協力して感染防止対策に取り組んでいます。</p>
--

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・水稻を主要作物としつつ、麦、大豆、そば、果樹(りんご・ぶどう・ブルーベリー等)、野菜(白ねぎ・たまねぎ・アスパラ・ジュース用トマト等)を中心に推進していきます。</li> <li>・子実用とうもろこしの推進について検証を進めます。</li> <li>・環境に配慮した栽培の取組みを段階的に進め、スマート農業技術の導入による作業の省力化を進めます。</li> </ul>
--

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・守る農地のうち特に生産性が高く耕作条件の良い農地について、中心的経営体へ農地の集積・集約化を図ります。</li> <li>・水田活用直接支払交付金の5年水張ルールに適應した作物のローテーションを計画します。</li> </ul>			
(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	65 %	将来の目標とする集積率	70 %
(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心的経営体への農地集積・集約を進め、団地面積の増加を目指します。</li> </ul>			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1) 農用地の集積、集団化の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農地パトロールの結果、遊休農地化が懸念される箇所が見つかった場合に、担い手の意向確認と農地の利用調整を図ります。</li> <li>・耕作予定者が検討中の農地について、聞き取り等により情報の更新に努めます。</li> </ul>
(2) 農地中間管理機構の活用方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用意向調査の結果と農家の意向を踏まえた農地中間管理機構への貸付手続きを行います。</li> <li>・農業委員会が関係機関と連携し、農地中間管理機構に貸付けを希望する復元可能な遊休農地、経営の廃止縮小を希望する高齢農家等の農地について農地の出し手と受け手の意向を踏まえたマッチングを行います。</li> </ul>
(3) 基盤整備事業への取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体営補助事業の活用による和田川用水路改修工事の実施に向けた計画を策定し、R10年度からの工事開始を目指します。</li> </ul>
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内外での就農移住相談会へ積極的に出展します。</li> <li>・里親研修制度の活用による新規就農者の定着を図ります。</li> <li>・農地の借入意向のある認定農業者及び参入希望者に、必要に応じて現地見学や相談会を実施します。</li> <li>・企業も地域の担い手になり得る存在として、積極的に参入の推進を図ります。</li> <li>・新規就農者に対し、市や北アルプス農業農村支援センターを中心とした支援チームにより現況確認を行うとともに、営農計画に沿った活動が行えるよう相談に応じ、アドバイスを行うなどサポートします。</li> </ul>
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手のニーズを把握するため、定期的な訪問活動を行います。</li> </ul>

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/>	①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/>	②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/>	③スマート農業	<input checked="" type="checkbox"/>	④畑地化・輸出等	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤果樹等
<input type="checkbox"/>	⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/>	⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/>	⑧農業用施設	<input checked="" type="checkbox"/>	⑨耕畜連携等	<input checked="" type="checkbox"/>	⑩その他

【選択した上記の取組内容】

①市の南西部に位置する常盤地区は、北アルプスの麓に近く、昔から多くの野生鳥獣が生息し出没する地区です。水稲の一大産地であり、山際の食害を防ぐため早くから地域ぐるみで侵入防止柵の設置に取り組んできており効果をあげています。今後も、地域ぐるみで設置した侵入防止柵を適正に維持管理するとともに、隣接する松川村と連携した広域的な対策についても検討していきます。

②環境保全型農業直接支払交付金の活動組織を中心に有機農業の取組面積拡大を図っていきます。

③一部の農家ではドローンによる空中散布や水稲の自動水管理システムなどの導入が進んでいます。今後見込まれる担い手の減少に対し、スマート農業技術の普及による農作業の省力化が望まれますが、導入コストが高いことや新しい技術の習得が課題であり、国庫補助の活用やメーカー、JA、北アルプス農業農村支援センターとの連携による技術講習により導入支援を図っていきます。

④水稲の一大産地であり、市内で最も早く米の輸出に取り組み始めた地区です。米の輸出事業に取り組む生産者の数も多く、有機栽培米の輸出にも取り組んでいます。引き続き、米の輸出に取り組むことで経営基盤の強化に繋げるとともに、日本酒の地理的表示「GI信濃大町」(清酒)の原料米栽培圃場があるため、良質な酒米確保にも努めます。

⑤標高が高く冷涼な気候に恵まれているため、主にりんご、ぶどう(生食用)、ブルーベリーなどが栽培されています。現状の栽培体系を維持しつつ、作業の省力化を図るための品種転換や地球温暖化等による環境変動に適應した新品種導入を検討し、また、ジャム・ジュース等の人気の高い加工品の製造にも力を入れていきます。

⑦中山間地域農業直接支払交付金及び多面的機能支払交付金の活動組織を中心に農地及び付帯設備の保安全管理を図ります。高瀬川右岸土地改良区による和田川用水路改修工事(泉・下一木中・清水)の実施に向けた計画を策定します。大町市社協を中心に農福連携による畔草刈り等の作業受託面積の拡大を図ります。

⑨畜産クラスター事業の活用により施設の更新を図るとともに、子実用とうもろこしの生産拡大、地域内の飼料循環確立による国産飼料利用の増進、並びに地域内での堆肥の活用を進めます。]

⑩農地中間管理事業の賃借料について、貸付者と借受者の間で調整が整い長野県農地中間管理機構理事長が認めた場合は、金納に代わり物納(米に限る)の取扱いができるものとします。

